

青の都 ウズベキスタン

1、ウズベキスタンの特色

*イスラーム文化に触れる

サマルカンド・ブハラ・ヒヴァの三都市の世界文化遺産

*日本との友好関係

国立ナヴォイ・オペラ劇場の工事 (1945 年) と日本兵シベリヤ抑留者労働によって約 80 人が「日本人墓地」に眠る

*青の建造物 青タイルのモスク・神学校・廟 (お墓)

なぜ青色なのか。

ティムールが好み王朝の基調色になった。オアシスの水や空の色
宗教的に好む青の色 その他

2、ウズベキスタンの概略

*ティムール朝 14 世紀ティムール朝として大国家に発展

*ソビエト連邦 1924 年に連邦下の共和国となり、その後ウズベキスタン社会主義共和国となった。1966 年タシケントに震度 8 の大地震が起き大災害を受けた。

*独立 1991 年 ウズベキスタン共和国

首都タシケント 人口約 2955 万で約 80% がウズベク人

綿花・天然ガス・石炭・石油・金・ウランの生産量が多い

通貨 スム 1US\$ = 1436 スム 1円 = 14.36 スム 1 スム = 0.07 円

*ウズベキ人は中央アジアで最も多い民族。チュルク系 (トルコ) のウズベキ語を話し信仰はおおむねスンナ派イスラームである。

*ウズベキスタン・カザフスタン・トルクネスタン・タジクスタン・キルギスのうち、タジキスタンを除くすべての民族はトルコ系で、中央アジア全域がトルキスタンと総評されている。

3、旅のコース

*世界文化遺産都市と首都タシケント

・サマルカンド ティムール帝国(1370 年～1500 年)

ティムール帝国期の青タイルのモスク・メドレセ・廟

・ブハラ サーマン廟の首都 カリヤーンミナレット

・ヒヴァ ヒヴァハーン国 内城イチャン・カラ 野外博物館都市
カルタ・ミナールのモスク

*タシケント 中央アジアで唯一の地下鉄が走る オアシスと緑の町

特に印象が残ったのは、サマルカンドの聖地 (死者の通り) のシャーヒズィンダ霊廟の建築群 (約 20) を歩き、空の青とタイルの青がすばらしい景観だった (スライド)

ウズベキスタン









































